

「建築技術」短期連載 第④回
機械式定着工法による接合部配筋詳細設計
機械式主筋定着詳細に関する技術的課題

本連載の第1回は特殊形柱梁接合部，第2回は最下階柱・基礎梁接合部，第3回は柱主筋外定着方式柱梁接合部について，それぞれSABTEC指針に基づき，接合部内の主筋定着検定に重点をおき執筆した。同指針は，実験的知見に基づくことを基本として作成されている。しかし，実建物の梁，柱主筋定着部には，種々の形態があり，同指針の規定だけでは対処できない場合がある。

そのような場合，機械式定着工法の長所と短所を踏まえ，それぞれの設計条件に対して創意工夫が必要となる。機械式定着工法の長所は，太径鉄筋でも折り曲げずに，定着金物の効果によって設計で保証すべき主筋定着耐力を確保できることである。

本稿では，機械式定着工法の短所について記述し，実務設計でしばしば遭遇するが，必ずしも適切な解決策を見い出せない梁・梁接合部の梁主筋定着部配筋詳細などの解決策について模索する。また，設計の取り扱いが必ずしも明確でない鉄骨露出柱脚・基礎梁主筋定着部の注意点について言及する。

(注記)

本稿は、「建築技術」短期連載 第4回 の原稿(2015年8月号)であり、(株)建築技術のご了解を頂き、当機構HPのWEB講座に掲載したものです。